

MUJINTO

The Alumni Association of Otani University

無 書 燈

2005年9月
No.124



大谷大学同窓会



歴史を見つめて

同窓会会長

藤島建樹

先日、三十年前に果たせなかった修学旅行を実施したいというかつてのゼミ学生に連れられて北中国を旅した。内モンゴルのバオに泊まり、果てしない草原と満天の星空を満喫した楽しい旅であったが、その間の一日、山西省大同市に立ち寄り、雲崗石窟や華嚴寺・善化寺などを久方ぶりに訪ねることができた。

雲崗石窟は中国三大石窟の一つ、観光地として整備され、往年の野趣に富んだ情景は失われたが、偉容を誇る仏たちや、華麗な壁画の数々は変わらず感動を与えてくれた。この石窟は、西暦四〇〇年頃に北中国を制覇した北魏帝国が、四五〇年代から開鑿したとされていた。しかし、今回手にした最新の解説書には、雲崗石窟は、初代皇帝・道武帝が、河北から招いて道人統として崇めた法果和尚に命じて掘削させたのが最初であり、それは現在の第三窟であると記されている。従って、その開鑿年代は、従来の説より約六十年溯ることになり、あの敦煌石窟にも比肩し得るものとなる。一例を示したにすぎないが、この石窟を、多民族協力で融合の産物と強調するなど歴史の見直しが行われている雰囲気は、他の記述からも伝わってくる。

また、大同市内での華嚴寺・善化寺などの寺院の存在はよく知られている。西暦一〇六二年に建てられた華嚴寺は、遼皇室の祖廟的性格を持つこと、その主たる建造物が当時の木工芸術の粋を集めたもの、五十体を超える仏像群が遼代塑像の逸品であることなど、案内書にも記されている。

しかし、現実にその場に立ち、その威容を目のあたりにしたとき、これを生み出した時代と人々に感動を覚えずにはおられない。唐代に華開いた長安仏教の本流と、それを伝える遺構はこの大同にあるのではないかと思われる。この歴史の頁を割くに値する両巨刹の重みと歩み、そこから展開された当時の社会様相や宗教事情などを活写する歴史書はなく、仏教史の叙述にも見えない。

大同は、北魏の鮮卑族、遼の契丹族、金の女真族、いずれも外民族・少数民族政権の重要な拠点であったが、漢民族にとっては辺境の地であった。漢族主流の従来中国史の中で、それら辺境外民族政権の歴史を正確に記しているとは思えない。意図の有無はともかく、そのような史料に基づいてなされる歴史認識は真実に近づき難い。現在、日本にも問われている「歴史認識」ということの厳しさを改めて感じさせてくれた旅でもあった。

このたび推挙をうけて、図らずも同窓会会長の任につくこととなった。もとより浅学にして非力・菲才の身でこのような大任に耐え得るものではないが、少子化の時代・大学変革の時代に、母校が「仏教を世界に発信する大学」として評価されるためには、同窓会の果たす役割も小さくはないであろう。大学の歴史を見つめつつ、永らく会長として真摯な姿勢と、強い情熱を示された佐々木教悟前会長を範とし、会員諸氏のご支援とご鞭撻を活力として、本会の発展のために尽力したいと思う。

(大谷大学名誉教授)

大谷大学ならびに大谷大学同窓会における個人情報の取り扱いについて

学校法人真宗大谷学園では、2005年4月1日の「個人情報保護法」の完全施行にともない、新たに「個人情報保護に関する規程」を制定し、個人情報を保護する業務の取り扱いに慎重を期すよう取り組んでおります。

大谷大学（大谷大学短期大学部を含みます。以下同じ。）ならびに大谷大学同窓会は、旧来より大学・同窓会の運営に必要な個人情報を共同で保有しております。現在保有している同窓会員各位の個人情報の取り扱いについても、規程、法令を遵守し、今まで以上に細心の注意を払い慎重を期してまいります。

何卒よろしくご理解ご協力をくださいますようお願い申し上げます。

なお、大谷大学ならびに大谷大学同窓会が共同で保有する個人情報の利用目的や情報開示に関する取り扱いについては、以下に示すとおりです。

1. 個人情報の利用目的

大谷大学ならびに大谷大学同窓会は、大谷大学が保有する卒業生の個人情報のうち、学生番号、氏名、住所、電話番号、性別、生年月日、卒業年月、入学年度、指導教員、学部学科分野研究科専攻、所属クラブについて共同して保有し、その個人情報を以下の業務を遂行するために利用いたします。

- (1) 同窓会報『無盡燈』の送付
- (2) 同窓会費徴収に関する事務
- (3) 同窓会員に対するアンケート調査の実施
- (4) 同窓会本部もしくは大谷大学からの事務連絡および各種文書の送付
- (5) 同窓会支部等が主催する行事の事務連絡および各種文書の送付
- (6) ゼミ・クラス同期会、OB・OG会等の開催に関する事務連絡および各種文書の送付
- (7) 同窓会員の名簿管理・作成
- (8) その他、同窓会員に関する業務

なお、大谷大学と共同して保有する個人情報のうち、同窓会員各位から申し出をいただいた個人情報の追加、変更、訂正については、その内容についても大谷大学と共同して保有し、同窓会員各位の個人情報について、できうる限り正確かつ最新の内容に保つよう管理いたします。

大谷大学ならびに大谷大学同窓会が取得した個人情報の利用は、前掲の業務の範囲内に限るものとし、その目的以外の用途には利用いたしません。

2. 委託に関する事項

大谷大学ならびに大谷大学同窓会は、業務の遂行上、業務の全部又は一部を委託する場合、個人情報の守秘義務の管理、監督を含む契約を結ぶことにより、個人情報の安全管理措置を遵守して利用いたします。

3. 開示に関する事項

大谷大学ならびに大谷大学同窓会は、同窓会員各位の個人情報をできうる限り正確かつ最新の内容に保つよう管理いたします。本人から開示要求の申し出があったときは、大谷大学ならびに大谷大学同窓会が共同で保有する個人情報の開示を行います。また、内容が正確でないなどの申し出があったときは、その内容を確認し必要に応じて個人情報の追加、変更、訂正または利用の停止を行います。

4. 開示受付窓口

個人情報の開示は、大谷大学校友センターで受け付けます。開示には、時間がかかる場合があります。個人情報の開示には、手数料がかかり、その内容によっては、実費を請求する場合があります。

大谷大学同窓会運営に関する個人情報の取り扱い窓口

大谷大学校友センター内 大谷大学同窓会本部
〒603-8143 京都市北区小山上総町
TEL. 075-411-8124

「個人情報保護に関する規程」は、同窓会ホームページ「無盡燈」上に掲載されています。

「谷大の学問向上を願う」

平野顕照先生にインタビュー



随分と大変だったのではないかな。

私は終戦後の昭和二十二年に大学の予科に入ったのですが、その頃は片道三時間半ほどかかったんですよ。朝五時半の汽車にのって八時十分からの一日六時間の授業に出ました。学生時代は自転車を持ってませんでしたから、東海道線にそって米原駅まで五十分ほど歩き、そこから二時間半ほど汽車にのりました。往復で七時間ですよ。その間に勉強したものです。その頃の蒸気機関車による列車は粗末なもので、車両の窓はガラスの代用に数枚の板を張ってあるだけ。トンネルに入ると煙が車内に充満して、早朝に洗ったばかりの顔が京都駅に着くころにはすっかり黒ずんでいましたね。

大学の予科ではどのように過ごされましたか。

昭和二十二年の三月に筆記試験をうけて予科に入りましたが、予科では中国語クラスを選びました。文学

部を昭和二十八年に卒業する時、広瀬果先生、高橋正隆先生諸氏と同級生でした。僕は予科では制服がなく、復員の軍服で通学したんですよ。予科の三年間のうち昭和二十二年・二十三年には、一週間ほど授業したら、その後「イモ休暇」というのがありました。寮にいた学生を故郷に帰らせて、充電してまたやって来ると一週間授業をする。とにかく食糧不足で、寮にいた学生はいつもサツマイモばかり食べてましたね。当時、休暇といえば「イモ休暇」だけで、夏休みや冬休み、春休みはありませんでした。

中国文学の研究を志された動機についてお聞かせください。

私になぜ中国語に興味があったかという点、母親が台湾の高等女学校の卒業生なんです。

台湾の高等女学校の研究科を出て、日本に嫁いできて教師をしていました。それで彼女はときおり中国語でしゃべってました。女性の中国語というのは、リズムや音声がきれいでいいんですよ。だから、自分も中国語をやったらいんじゃないかと、かねてから思っていたんですね。

文学部では支那学科 今では中国文学分野ですが に入りました。その時、支那学を希望した学生が三名

いましたが、実際に授業に出たのはずっと私ひとりでした。主任が中田勇次郎先生で、講師が神田喜一郎先生、語学は水谷真成先生が担当しておられました。あと講師の田嶋先生と梅原先生がいて、中国語の会話を教えてもらいました。

私の卒業論文のテーマは「変文」という仏教と関係深い中国の俗文学でした。鄭振鐸の『中国俗文学史』を読んで、「変文」に興味をもち、文学部ではずっと「変文」を研究したんです。そのとき水谷先生には随分とお世話になりました。たとえば、梵唄とか仏教説話が「変文」のなかにもあるから、そういう点からも研究しなければならぬ、ということも先生から教わりました。先生の御自坊であつた智慧光院には、何度も泊まりこんで教えをうけましたね。

お若い頃の研究の思い出や、研究テーマについてお聞かせください。

研究科 今の大学院ですね に入り、やがて助手になった頃、中田先生から「大谷大学だけで勉強してもだめだ、よそで他流試合をして恥をかいて来い」と言われ、京都大学・人文科学研究所の共同研究会に参加するようになりました。

そのときの共同研究のテーマは「古典の校注と研究」で、チーフは

本学の文学部文学科（中国文学分野）において、永年にわたり教鞭をおとりいただきました平野顕照先生を、滋賀県近江町の御自坊にお訪ねし、お話を伺いました。

大学からこちら（先生の御自坊）に到着するまで二時間ほどかかりました。昔は京都までの通学・通勤は

平岡武夫先生でした。一線級の錚々たる教授方が席をつらねる研究会でしたが、私はしもの方に腰かけて、議論を聞きながら休憩に紅茶を飲むのが楽しみでした。発表の順番があつた時は、徹夜で調べていかなきゃならない。たつた一行の詩を調べのに一週間かかることもありました。そのうち「仏教関係は平野にやらせる」ということになり、それで『白氏文集』の仏教関係の作品は殆ど私が担当するようになりました。そのため苦労しましたが、この頃から「白居易の文学と仏教」というテーマに本格的に取り組むようになりましたね。後に、「変文」もふくめ、中国文学と仏教というテーマを中心にまとめた『唐代文学と仏教の研究』という本を出版しました。この本の内容にかかわることについて、今でも他の研究者から抜き刷りを送ってもらつてあります。大いに啓発され、ありがたいことだと思えますね。

現在はどのような研究テーマに関心をお持ちですか。

白居易の詩文のなかに浄土經典のことばがかなり出てくるんですね。そのいくつかをピックアップして、いま論稿をまとめています。それからもうひとつは、それぞれの人生で

節目節目に何度も変動がありますよね。それが挫折であつたり、病気であつたりと、いろいろあります。そういうことについて、白居易の四十歳のときの人生が、彼の生涯のなかでどのような意味をもっていたのかということについて考えています。何故かといえば、「四十にして惑わず」でしょう。『論語』でいえば「揺らぐはざがなげん」です。ところがこれが揺らぐんです。四十歳という年齢は。その現実には仏教という「業」ですね。宿業のいたすところ。いかなる振る舞いをもしなげればならないんです。中国人は基本的に儒教の世界に育ってきたんだけれども、やはり四十歳には四十歳なりの心理的揺らぎがあります。その処理をいかにしているか、白居易の作品をとおして注目しているんです。

最後に、大谷大学における中国文学研究のありかたについて考えておられることや、本学の学生や研究者へのメッセージをお聞かせください。

今はグローバルな時代ですから、大学は、響流館がめざすところのメディアの発信基地になれるわけですね。発信基地であるからにはひとつの枠に凝り固まつた発信基地ではなくして、文学もあれば仏教もある、

哲学もあれば芸術もあるというように多角的な視点をもつた場所であるのが望ましいでしょうね。中国文学では思想と語学の両方を学ばなければなりません。また、文学には「美」というものがあります。美意識ですね。また感性、そういったものを織り交せて、仏教と融和させて発信してほしいと思います。そのようにして、大谷大学の存在が学界に一層貢献を果たすように頑張ってくださいたいと願っています。



「学ぶこと」の尊さを

大学時代は勿論のこと、卒業後も伝説や歴史の考究をする中で、特に拙著『龍宮にいちばん近い丹後』を出版した時は、先生の自宅まで原稿をもち押しかけご教示いただいた記憶があります。丁寧なアドバイスをいただきました。その後も、

伴 とし子

- 〔略歴〕
- 一九二八年 滋賀県に生まれる
 - 一九五三年 大谷大学文学部卒業
 - 一九五五年 大谷大学研究科修了
 - 同 大谷大学助手
 - 一九五六年 大谷大学専任講師
 - 一九六三年 大谷大学助教
 - 一九七三年 大谷大学教授
 - 一九八六年 文学博士
 - 一九九四年 大谷大学退職
 - 現在 大谷大学名誉教授
- 〔論文〕
- 「杜甫と『観無量寿経』」
 - 「佛・道二教にみる父母恩重経」
 - 「中国文学にみる西方観」
 - 「中国古写経研究一題」
 - 「中国古典文学と白蓮華」
 - 他著書・論文多数

平野顕照先生へのコメント



ばん としこ
1977年卒業
(文学部文学科)

『古代丹後王国は、あつた』等出版し、今も続けていますが、先生に中国文学を学んだことが大きな基盤になっています。先生の講義ノートをかえし、「文学には命がある。不朽の盛事である。」と記していたのを見つけました。現在も、文学だ、歴史だ、浪漫だ、と言いつつながら暮らせる幸せは、先生から「学ぶこと」の尊さと楽しさと、それがやがて社会に還元できることであることを教えていただいたからだに感謝しています。



本部報告



二〇〇五年度同窓会総会開催（報告）

去る五月十六日（月）午後一時三十分より、本学博綜館第一会議室において、本年度総会が開催されました。

議長に山梨支部長の栗原宣如氏を選出し、各議案について活発な審議をいただき、それぞれ承認を得ました。

一、二〇〇四年度事業報告及び決算報告（下記「収支決算書」参照）

一、役員選出について
任期満了に伴う会長・副会長・理事長・常務理事・理事及び監事の改選を会則第十条により行い、次のとおり決定しました。

なお、全ての役員の任期は、会則第十三条により二年となります。

また、今回の役員改選により永年にわたり本部役員をお務めくださり、同窓会発展のために多大なるご尽力を賜りました佐々木教悟会長（大谷大学名誉教授）、富永伸副会長、伊知地巍照常務理事、

河原喜久男監事、北原了義監事が退任されました。

会長 藤島 建樹

副会長 寺林 惇

理事長 若槻 俊秀

常務理事 等岳 兼昭・二階堂行邦

理事 安田 龍誓

石川 正生・井関 淨

加藤 隆昭・沙加戸 明

柴田 達也・竹園 閔

中村 高澄・本田 昭英

吉田 法純

常務理事（学内） 宮下 晴輝・藤坂 初裕

石橋 義秀・小谷信千代

佐々木令信・一楽 真

織田 顕祐

稲垣 俊一・朽木 明暁

監事

一、今後の同窓会活動について

「同窓会活動企画推進委員会に関する件」につきましては、企画

推進委員会の一楽真常務理事（第一部会学内担当）から部会の活動報告がなれた後、「第十回ホームカミングデー開催要項（案）」、「同窓会ホームページの改編についての方向性」が提案され、承認されました。

引き続き、二階堂行邦常務理事（第二部会長）から部会の活動報告がなされた後、「同窓会つどん用特製麵鉢の製作」、「同窓会学生支援表彰制度の設置」が提案され、承認されました。



一、二〇〇五年度事業計画及び収支予算（左記「収支予算書」参照）

2005年度 大谷大学同窓会本部収支予算書

【収入の部】		(単位:円)
科目	予算額	
1 前年度繰越金	9,206,691	
2 会費	36,300,000	
会費(1)	2,850,000	
会費(2)	33,450,000	
3 入会金	5,575,000	
4 出版物等売上金	100,000	
5 雑収入	230,309	
合計	51,412,000	

【支出の部】		(単位:円)
科目	予算額	
1 事業費	15,905,000	
本部事業費	3,800,000	
支部事業助成費	5,605,000	
同期会・OB会等開催助成費	800,000	
学生会助成費	500,000	
新入会員歓迎費	5,200,000	
2 刊行費	6,522,000	
無盡燈刊行費	5,420,000	
印刷製本費	1,102,000	
3 事務費	7,022,000	
本部事務局費	120,000	
手当	340,000	
通信費	6,562,000	
4 旅費	8,208,000	
5 会議費	1,820,000	
6 委託費	3,450,000	
7 雑費	550,000	
8 同窓会基金への繰入支出	3,050,000	
9 出版事業積立金への繰入支出	1,001,000	
10 同窓会活性化準備金	2,000,000	
11 予備費	1,000,000	
12 次年度繰越金	884,000	
合計	51,412,000	

2004年度 大谷大学同窓会本部収支決算書

【収入の部】		(単位:円)
科目	決算額	
1 前年度繰越金	8,743,829	
2 会費	40,374,000	
会費(1)	1,914,000	
会費(2)	38,460,000	
3 入会金	6,405,000	
4 出版物等売上金	99,400	
5 雑収入	163,468	
合計	55,785,697	

【支出の部】		(単位:円)
科目	決算額	
1 事業費	12,375,946	
本部事業費	1,346,691	
支部事業助成費	5,083,980	
同期会・OB会等開催助成費	560,000	
学生会助成費	500,000	
新入会員歓迎費	4,885,275	
2 刊行費	5,319,636	
無盡燈刊行費	4,331,796	
印刷製本費	987,840	
3 事務費	6,151,808	
本部事務局費	109,366	
手当	290,000	
通信費	5,752,442	
4 旅費	7,872,520	
5 会議費	1,567,273	
6 委託費	2,542,050	
7 雑費	424,590	
8 同窓会基金への繰入支出	8,044,796	
9 出版事業積立金への繰入支出	1,000,487	
10 同窓会活性化準備金	1,279,900	
11 予備費	0	
12 次年度繰越金	9,206,691	
合計	55,785,697	

第十回 同窓会ホームカミングデー案内

同窓会では、例年学園祭「紫明祭」開催期間中の土曜日に「ホームカミングデー」を開催しております。

「恩師・旧友との再会」「学園祭バザー参加」のほか、新たな催しとして「出会いでピンコ」等を企画するなど次のとおり開催します。

また、「ホームカミングデー」をゼミ・クラス同期会、学寮・クラブ等の同窓会の集場所として位置付けていただき、この機会にゼミ・クラス同期会等を開催されてはいいかが



でしょうか。お仲間をお誘い合わせのうえ、母校大谷大学にお越しください。

詳細は本会報に同封しております案内状をご覧ください。

【二〇〇五年十一月十二日(土)】

「第一部」谷大で会おう 会費無料

・十三時

博覧館屋上で記念撮影

・十三時～十五時

恩師・旧友との再会

・十五時～十六時

学園祭バザー参加

・十三時～十六時

出会いでピンコ

・プレイルーム

(簡単な遊具・ビデオセットを設置)

ホームページ閲覧コーナー

・十三時三十分～十六時

響流館自由見学

(ネームプレートで入館可)

*博物館冬季企画展「京都に学ぶ」開催中

「第一部」懇親会 会費五千円

京都ロイヤルホテル&スパ

・十七時三十分～十九時

立食パーティー

支部名称の変更、
支部長・事務局交代のご紹介
あらかじめご用意したようでお知らせいたします

支部名称変更

旧 芦別支部

新 北の国支部

北の国支部長

藤井亮一

(前支部長)

黒川俊樹

能登支部長

篠岡誓弘

(前支部長)

亀淵了映

尾張学友会支部長

成瀬賢也

(前支部長)

富永伸

郡上支部長

和田正之

(前支部長)

可児賢了

湖東支部長

斉藤沢巳

(前支部長)

山本清麿

郡上支部事務局

玉腰秀樹

(前事務局)

石神明

同窓会ホームページの リニューアルについて

同窓会では、同窓会ホームページ「無盡燈」を公開していますが、7月1日にリニューアルしました。

これまで、同窓会からの行事案内や報告、無盡燈ギャラリー、リンク集などを掲載しておりましたが、新たに「各種証明書・施設利用の申し込み方法のページ」や同窓の皆さんには懐かしい「大学歌・寮歌を聞くページ」を掲載しました。

今後も毎月1日に内容を更新しますので、ぜひ一度、同窓会ホームページ「無盡燈」にアクセスしてください。

ホームページアドレス

<http://www.mujinto-otani.org/>



同窓会報「無盡燈」および
同窓会ホームページについて
ご意見をお寄せください。

同窓会員の皆さんに、同窓会報「無盡燈」および同窓会ホームページ「無盡燈」に関するご意見・ご感想をお寄せいただくためのハガキを同封しております。

また、ご夫婦、親子など複数の同窓会の方が同居しておられ、複数の会報の送付が必要でない方は、お知らせください。

今後の同窓会報およびホームページをよりよいものにするために、ぜひご意見・ご感想をお寄せください。

*前号の「支部長・事務局の交代」ご紹介欄で 上越支部 事務局は 三条支部 事務局の誤りでした。ここにお詫び申しあげ、訂正いたします。
三条支部事務局 源 了恵
(前事務局 宮戸 弘)

南インド仏教遺跡研修の旅

～アジャンタ、エローラと龍樹菩薩ゆかりの地を訪ねて～

会員相互の親睦・交流をはかり、校友の輪を一層広げていただくため、本会企画海外研修の旅を実施いたします。

このたび、同窓会会長 藤島建樹名譽教授を団長として、世界遺産にも指定されているアジャンタ石窟寺院群、エローラ石窟寺院群や龍樹菩薩ゆかりの地ナーガルジュナコンダなどを訪ねる「南インド仏教遺跡の旅」を企画いたしました。

会員をはじめ有縁の方々のご参加をお待ちいたしておりますので、お問い合わせのうえでご参加くださいますようお願いいたします。

- ◆旅行期間 明年1月7日(土)～1月16日(月)
- ◆募集人員 35名(最少催行人員25名)
- ◆旅行費用 318,000円
- ◆申込締切日 11月22日(火)
- ◆参加資格 同窓会員とご家族等
- ◆申込方法 旅行会社へパンフレットをご請求のうえ、お申し込みください。
定員を超えた場合は、申し込み順とさせていただきます。
- ◆お問い合わせ先・取扱旅行代理店
アショカツアーズ(株)ビーエス観光
〒530-0005 大阪市北区中之島3-6-32 ダイビル1階
TEL 06-6444-2225 (担当 道家/藤本)

■南インド仏教遺跡研修の旅

	月日	訪問都市	交通機関	現地時間	スケジュール
1	2006年 1月7日(土)	関西国際空港 シンガポール ムンバイ	SQ-985 SQ-424	9:00 11:00 16:35 20:25 23:15	関西国際空港 国際線出発ロビー集合 空路、シンガポールへ 着後、乗り継ぎ手続き 空路、ムンバイへ 着後、ホテルへ 【ムンバイ 泊】
2	1月8日(日)	ムンバイ オーランガバード	9W-3103	7:30 8:15	空路、オーランガバードへ 着後、世界遺産「アジャンタ石窟寺院群」見学 【オーランガバード 泊】
3	1月9日(月)	オーランガバード	列車	午前 19:20	世界遺産「エローラ石窟寺院群」見学 列車にて、ハイデラバードへ 【車中 泊】
4	1月10日(火)	ハイデラバード ナーガルジュナコンダ	専用車	9:00 13:00 17:00	着後、中世の砦跡「ゴールコンダフォート」見学 専用車にて、ナーガルジュナコンダへ 着後、ホテルへ 【ナーガルジュナコンダ 泊】
5	1月11日(水)	ナーガルジュナコンダ ビジャヤワダ	専用車	午前 13:00 19:00	龍樹菩薩ゆかりの地「ナーガルジュナコンダ」参拝 専用車にて、ビジャヤワダへ 着後、ホテルへ 【ビジャヤワダ 泊】
6	1月12日(木)	ビジャヤワダ チェンナイ	列車	午前 14:30 21:05	南インド最大の仏教センターがあった「アマラバティーの大仏塔跡」見学 列車にて、チェンナイへ 着後、ホテルへ 【チェンナイ 泊】
7	1月13日(金)	チェンナイ コチン	IC-973	午前 18:30 19:30	世界遺産「マハバリプラム」見学 空路、コチンへ 着後、ホテルへ 【コチン 泊】
8	1月14日(土)	コチン		午前 16:00	アレッピーの水郷地帯をボートクルーズ ケララ州の伝統舞踊「カタカリダンス」鑑賞 【コチン 泊】
9	1月15日(日)	コチン		終日	コチン市内「シナゴーク、ダッチパレス、聖フランシスコ教会、 チャイニーズフィッシュネット、バックウォーター地帯」観光 空路、シンガポールへ 【機中 泊】
10	1月16日(月)	シンガポール 関西国際空港	SQ-984	5:40 8:25 15:25	着後、乗り継ぎ手続き 空路、関西国際空港へ 着後、入国・通関の後、解散

※現行のスケジュールです。現地の交通事情により日程を変更させていただく場合もありますので、予めご了承願います。
※利用予定ホテル
ムンバイ：リーラケンピンスキー オーランガバード：タージレジテンシー
ナーガルジュナコンダ：ビジャイビハールコンプレックス
ビジャヤワダ：クオリティーイン チェンナイ：タージコネマラ
コチン：タージレジテンシー

母校の動き (2005年4月～2005年8月)

- 4 / 1(金)【学年始・宗祖誕生日】
4 / 4(月)【入学式】
4 / 5(火)～23(土)
【博物館春季企画展】
「大谷大学のあゆみ - 大学の前身・学寮の時代 -」
- 4 / 9(土)【若葉祭】
4 / 25(月)【宗祖御命日勤行・講話】
「菩薩行について ギャルサー・トクメー・サンポの教え・日本の歎異抄に相当するもの」
白館戒雲 本学教授
- 5 / 16(月)【同窓会総会】
5 / 24(火)【大谷学会春季公開講演会】
「仏陀最晩年の老病死観」
吉元信行 本学教授
「イラク戦争の大義とアメリカの宗教」
森 孝一 同志社大学神学部教授
- 5 / 24(火)～ 8 / 2(火)
【博物館夏季企画展】
「仏教の歴史とアジアの文化」
- 5 / 25(水)【「人権問題を共に考えよう」全学学習会】
「部落差別の現在」
安田茂樹 部落解放同盟京都府連
- 5 / 27(金)【宗祖御命日勤行・講話】
「英語教師の経験から」 鈴木繁一 本学教授
- 6 / 1(水)【宗祖誕生会】
「親鸞と中世民衆」 平 雅行 大阪大学教授
- 6 / 8(水)【課外教育行事 異文化との出会い】
「天平楽府コンサート」
- 6 / 18(土)【教育後援会静岡地区父母兄弟懇談会】
6 / 25(土)【オープンキャンパス】
6 / 28(火)【宗祖御命日勤行・講話】
「形而上学の行方 - ベルクソン哲学の場合 -」
鈴木幹雄 本学教授
- 6 / 30(木)～ 8 / 2(火)
【博物館特別出品】「銀象嵌鍔付き直刀」
- 7 / 8(金)【教育後援会九州地区父母兄弟懇親会(大分会場)】
7 / 9(土)【教育後援会九州地区父母兄弟懇親会(福岡会場)】
【同窓会九州地区支部長会】
- 7 / 16(土)～30(土)【安居開講】
7 / 19(火)～21(木)【暁天講座】
19(火)「『御絵伝』絵解略史」 沙加戸 弘 本学教授
20(水)「時を超えたものに触れるとは! - 一如無為の恵み -」 本多弘之 親鸞仏教センター所長
21(木)「京都の親鸞聖人、その後」
名畑 崇 本学名誉教授
- 7 / 28(木)【宗祖御命日勤行】
7 / 31(日)【オープンキャンパス】
8 / 1(月)・2(火)【オープンキャンパスin Kyoto】
8 / 1(月)～ 9 / 17(土)【夏期休暇】

母校だより

神戸和麿先生、ノーマンA・ワデル先生に名誉教授の称号おくられる

大谷大学名誉教授称号授与規程に基づき、本学の教育上また学術上、特に功績のあった先生におくられる名誉教授の称号が、神戸和麿(真宗学)、ノーマンA・ワデル(英米文化・日本仏教文化)の両先生におくられました。授与式はワデル先生が四月一日、神戸先生が四月十五日に学長室において行われました。



ノーマンA・ワデル名誉教授



神戸和麿名誉教授

井上摩紀専任講師、天野勝重専任講師が、博士の学位を取得

二〇〇五年三月、本学の井上摩紀専任講師が、奈良女子大学から、学位論文「身体表現を用いた性役割観の研究」により、博士(学術)の学位を、また、天野勝重専任講師が、神戸大学から、学位論文「明治中期文学の研究 斎藤緑雨を中心に」により、博士(文学)の学位を取得されました。



天野勝重専任講師



井上摩紀専任講師

課程博士の学位を授与

本学では、博士後期課程修了者（既修了者含む）三名に、博士（文学）の学位を授与しました。学位取得者は、岡本隆明（仏教文化）、川端泰幸（仏教文化）、加藤基樹（仏教文化）の各氏です。

人事

館長などの交代

「博物館長」
礪波 護

（前博物館長 木場 明志）

「真宗総合研究所長」

沙加戸 弘

（兼真宗総合学術センター長）

（前真宗総合研究所長 兵藤 一夫）

「学寮長」

織田 顕祐

（前学寮長 一色 順心）

二〇〇五年四月一日付（各通）

退職・解任

* 定年退職

「教育職員」

神戸 和磨（教授・文学部）

皇 紀夫（教授・文学部）

ノーマン A・ワデル（教授・文学部）

塚田 秀雄（特別任用教授・文学部）

間庭 充幸（特別任用教授・文学部）

* 契約期間満了による退職

「任期制助手」

安藤 弥・片岡 宣行・仁木 夏実

藤谷 昌紀・本明 義樹・森 芳周

「事務系嘱託」

奥田 紀子（総務部）

谷脇美知代（教育研究支援部）

辻本 香（教務部）

戸出 真美（教育研究支援部）

西川 裕子（教育研究支援部）

西中 久恵（入学センター）

藤田 奈美（入学センター）

古庄 緑（教育研究支援部）

山田 哲也（教育研究支援部）

山藤美恵子（教育研究支援部）

「寮監」

藤間 哲祐（貫練学寮）

二〇〇五年三月三十一日付（各通）

* 依願退職

「教育職員」

米本 義孝（教授・文学部）

中島 容子（助手・短期大学部）

「寮監」

照光河難子（自灯学寮）

二〇〇五年三月三十一日付（各通）

新規採用・任命

「教育職員」

皇 紀夫（特別任用教授・文学部）

朴 一 功（教授・文学部）

阿部 利洋（専任講師・文学部）

喜多恵美子（専任講師・文学部）

志藤 修史（専任講師・文学部）

藤枝 真（専任講師・文学部）

古川 哲史（専任講師・文学部）

箕浦 暁雄（専任講師・文学部）

山内 清郎（専任講師・短期大学部）

新美 秀和（任期制講師・文学部）

「任期制助手」

川端 泰幸・廣川 智貴・藤田 直子

藤元 雅文・本井 牧子・義盛 幸規

若見 理江

「事務系嘱託」

大橋 美香（総務部）

草野 世理（教育研究支援部）

笹島きく代（教育研究支援部）

佐竹 由妃（教務部）

段 敦子（教育研究支援部）

長野 美穂（企画室）

本多 由佳（入学センター）

前田 千尋（教育研究支援部）

松宮佐和子（教育研究支援部）

山崎さつき（教育研究支援部）

「寮監」

青木 玲（貫練学寮）

一澤 美帆（自灯学寮）

二〇〇五年四月一日付（各通）

昇格

「教授」

デイディエ ヴェステル（文学部）

禿 憲仁（文学部）

桂華 淳祥（文学部）

中森 一郎（短期大学部）

「助教教授」

芦津かおり（文学部）

水島 見一（文学部）
吉田 孝夫（文学部）

二〇〇五年四月一日付（各通）

宗祖誕生会

六月一日（水）午前十時から、講堂において、宗祖親鸞聖人御誕生会が厳修されました。真宗大谷派では、四月一日に行われていますが、大学では春休み中を避け、毎年六月一日に行っています。

今年度は、勤行に引き続き、大阪大学教授 平雅行氏より「親鸞と中世民衆」と題して記念講演をいただきました。先生は日本中世史が専門であり、そのお立場から親鸞が生きていた中世はどのような時代であったのか、また親鸞は民衆とどのように関わっていたのかをお話くださいました。中世は「宗教の時代」とも言われますが、宗教は当時の社会・国家と密接に関わって、民衆の身分制を正当化し、民衆を支配するシステムとして機能していました。



平 雅行先生

それは民衆の救済という宗教本来の姿から遊離した状況といえますが、そのような時代に生まれた親鸞は、どこまでも民衆の苦悩に寄り添いながら生きた仏者であることを明らかにしてくださいました。特に『歎異抄』第四条の内容に注目され、そこに見られる慈悲の思想は、当時の飢饉にあえぐ民衆の苦悩が背景にあり、その中で民衆とともに苦しみ悩む体験から生まれたものであるとお話くださいました。

大谷学会春季公開講演会開催

五月二十四日（火）午後一時より、講堂において、大谷学会春季公開講演会が開催されました。毎年、学内と学外からそれぞれ一名の先生に講演をしていただいています。今年度の講師・講題は次のとおりでした。

大谷大学教授 吉元信行氏

「仏陀最晩年の老病死観」

同志社大学神学部教授 森孝一氏
「イラク戦争の大義とアメリカの宗教」

仏教学を専攻されている吉元先生は、仏陀最後の旅路の様子を克明に伝えている『大パリニツパーナ経』を取り上げ、この経典を引用しながら、仏陀が自らの老病死に如何に立ち向かわれたかを、映像を使ってわかりやすく、お話をしてくださいまし



吉元信行先生



森 孝一先生

した。

また、アメリカ宗教史を専攻されている森先生には、「九・一一」以後の「宗教国家」アメリカの現状について、また「対テロ戦争」というイラク戦争の大義とアメリカが目指すものをブッシュ大統領の演説を資料にして、詳しく分析・解説をしていただきました。

学外からの参加者も多く盛会裏に終えることができました。

ドイツ マールブルク大学学術交流会に参加

五月五日（木）から四日間、マールブルク大学において「内的平和と

暴力の克服…試練に立つ諸宗教の伝統」というテーマのもと第五回国際ルドルフ・オットー・シンポジオンが開催されました。本学から五名の教員が参加し、キリスト教をはじめとする諸宗教の研究者と学術交流を行いました。

近年、本学とマールブルク大学とは、浄土真宗と福音主義キリスト教の対話という形で共同研究を続けてきましたが、今回のシンポジオンでは、イスラム教・ヒンドゥー教・ユダヤ教の代表も交えて、宗教に根ざす暴力や戦争はどうしたら克服できるかという現代世界が直面する切実な問題が論じられました。

「暴力を越えて宗教が共存していくためには何よりも対話と寛容の精神が必須である」という基調の発表が多いなかで、門脇健教授と木越康助教授による発表は、自らの悪を自覚するところからこそ他者を認め共に生きる世界が開かれていくという真宗の視点を提示し、聴衆の関心を



シンポジオンの様子

集めました。最終日の五月八日が敗戦六〇周年記念日にあたったこともあり、ドイツ宗教者の真摯な思いが伝わる学会でした。

課外教育行事ー異文化との出会いーよみがえったシルクロードの音色「天平楽府」コンサート開催!

去る六月八日（水）、本学講堂にて劉宏軍氏の率いるオーケストラ「天平楽府」の室内アンサンブルコンサートが、stationエフエム京都（FM89.4）の後援により開催されました。

奈良の正倉院に一二〇〇年もの昔から伝わる古楽器、五弦琵琶や四弦琵琶、笙や箏篋などによる天平の音色がみごとに現代へと蘇ったのです。音楽監督でもあり演奏家でもある劉氏は、一九八〇年の来日以来、アジア民族音楽の研究、演奏、作曲活動をはじめ、特に正倉院が所蔵する古楽器に惹かれ、積極的にそれらの楽器の複製製作をされてきました。

公演当日は、本学学生や一般来聴の方々などで会場の席はほぼ埋め尽くされ、大盛況のうちに、公演は終了しました。天平時代の音色というと、ゆったりとした調べを思いがちですが、同時代の美術からも窺えるような躍動感あふれる音楽も演奏さ

れ、来聴者の方々も驚きと喜びいっぱい聴き入っていました。
公演後も「貴重な音楽を聴くことができた」「機会があれば、ぜひもう一度聴いてみたい」といった感想を多くいただきました。



天平楽府

本学卒業生、第二十一回太宰治賞受賞

本学文学部国際文化化学科卒業生の津村記久子（本名・津村紀久子）さんが「第二十一回太宰治賞」（筑摩書房・三鷹市共催）を受賞されました。太宰治賞は、一九六四年に筑摩書房が創設した小説の新人賞で、この賞から金井美恵子、吉村昭、加賀乙彦、宮尾登美子、宮本輝など多くの作家が生まれています。本年は五月十日に九二七篇の応募作品の中から、津村さんの『マンイーター』と川本晶子さんの『刺繍』が選ばれ、初のダブル受賞となりました。

本学では、第十九回に文学部哲学科卒業生の小林ゆりさんが受賞し、二人目の受賞です。

京都を舞台に描かれた受賞作品は、大学卒業間際の女子学生が息衝く個性光る作品です。選評者からは「現代の若者の世界が深く描かれた作品」とも評価され受賞となったものです。津村さんは現在、製本の仕事をされる傍ら、小説の創作に励んでおられ、今後の作家津村記久子さんのますますのご活躍が期待されます。



津村記久子さん

『文藝春秋』『AERA』誌コラム執筆者紹介

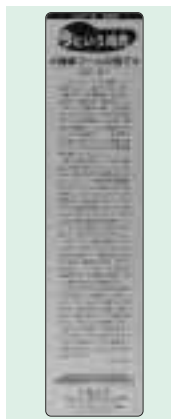
本学は各種の雑誌に様々な広告を掲載しています。そのいずれもが、大学の教育研究の一端を紹介するものとなっており、読者の方々からも高い評価を得ています。

今年度も『文藝春秋』誌に毎月「生活の中の仏教用語」、『AERA』誌に隔週で「今という時間」という

コラムを掲載中です。執筆担当の先生方は次のとおりです。

生活の中の仏教用語『文藝春秋』
中川皓三郎（真宗学）
浅見直一郎（東洋史）
木村 宣彰（仏教学）

今という時間（『AERA』）
木場 明志（日本近世近代宗教学）
西田 潤一（物理地質学）
松村 尚子（社会学）
加治 洋一（比較文化論、仏教学）
浦山あゆみ（中国語学）
中森 一郎（体育学）



『今という時間 (『AERA』)』

「紫明近隣 昔の写真展」CD-ROMを制作

二〇〇四年十二月七日～二十五日に開催されました「紫明近隣 昔の写真展」では、連日一〇〇名を超える方々に来場いただき、大変好評のうちを終了いたしました。

今回、写真展に提供いただきました写真のデジタル保存化を企画し、人文情報学科学生（卒業生を含む）

の協力により、約一六〇点の写真を収録したCD ROM（一枚五〇〇円）を制作いたしました。CD ROMは、写真の拡大や昔と現代の写真の比較、ジグソーパズルなどの遊びごころを加えた作品となっております。

本学では、今年度も写真展の開催を企画しており、写真の募集を行っています。学生時代の大学の様子や近隣の昔の写真をお持ちの場合にはご提供をお願いします。

【写真提供、CD ROM

購入についての問い合わせ先

大谷大学企画室

☎〇七五 四一一 八一一五



昔の写真展CD-ROM

二〇〇五年度春季課外活動結果

【団体成績】

- 卓球部（男子）**
関西学生卓球連盟春季リーグ戦
部Cブロック 六勝一敗 一位
部入替戦 一勝
部昇格
- 卓球部（女子）**
関西学生卓球連盟春季リーグ戦
部Bブロック 四勝 一位
部入替戦 一敗 部残留
- 柔道部（男子）**
京都学生柔道連盟京都学生柔道大会
二部 一敗一分 五位
- 柔道部（女子）**
関西学生女子柔道優勝大会
一回戦敗退
- サッカー部**
関西学生サッカー連盟春季リーグ
部Aブロック 七勝一分
部入替戦 部昇格
- 硬式野球部**
京滋大学野球連盟春季リーグ戦
部 七勝四敗 二位
- 剣道部（男子）**
西日本学生剣道大会
二回戦敗退
- バスケットボール部（男子）**
京都学生バスケットボール
選手権大会予選ブロック
一勝一敗 二位
- バスケットボール部（女子）**
京都学生バスケットボール
選手権大会予選ブロック

- 二勝一敗 一位
- 全関西女子学生バスケット
ボール選手権大会
二回戦敗退

- ソフトテニス部（男子）**
関西学生ソフトテニス連盟
春季リーグ戦V部Dブロック
一勝二敗 三位
部昇格
- ソフトテニス部（女子）**
関西学生ソフトテニス連盟
春季リーグ戦V部Cブロック
三敗 Dブロック降格
- 京都学生ソフトテニス連盟
京都学生大学対抗
一勝二敗
- バドミントン部（男子）**
京都学生バドミントン連盟
春季リーグ戦
部 三勝二敗 三位
- バドミントン部（女子）**
京都学生バドミントン連盟
春季リーグ戦 部
四勝一敗 一位
部入替戦 部昇格
- バレーボール部（男子）**
関西学生バレーボール連盟
春季リーグ戦
部 七敗 部降格
- バレーボール部（女子）**
関西学生バレーボール連盟
春季リーグ戦
部 四勝三敗 四位
- 空手道部**
関西学生空手道連盟個人選手権大会

【個人成績】

- 最優秀選手賞 森 悠祐
（文学部哲学科 第四学年）
- 硬式野球部**
京滋大学野球連盟春季リーグ戦
敢闘賞 井上陽次郎
（文学部人文情報学科 第四学年）
ベストナイン
● 二塁手 橋本 龍弥
（文学部国際文化学科 第三学年）
● 外野手 井上陽次郎
（文学部人文情報学科 第四学年）
打撃ベストテン
● 第三位 橋本 龍弥
（文学部国際文化学科 第三学年）
● 第四位 井上陽次郎
（文学部人文情報学科 第四学年）
● 第六位 早田 純也
（文学部仏教学科 第一学年）
● 第十位 辻井 吉祥
（文学部真宗学科 第三学年）
- 陸上競技部**
関西学生陸上競技対抗選手権大会
三段跳び
● 第二位 北條 智秀
（文学部真宗学科 第三学年）
- 跆拳道部**
W. A. T. A. OPEN
テコンドー選手権大会
男子一般 初級フライ
● 三位 山本 了
（文学部真宗学科 第三学年）
男子一般 初級ライト
● 二位 目崎 明弘
（文学部仏教学科 第四学年）

教育振興資金（募金）について

大谷大学・大谷大学短期大学部では、教育研究環境の一層の充実を図るために「教育振興資金局」を設置し、募金を行っています。
二〇〇五年二月二十一日から七月十五日までの間に「寄付いただきました皆さまの方々の芳名は、次のとおりです。」ご協力ありがとうございました。厚くお礼申し上げます。

件数 四十九件

寄付金総額 三、五四五、〇〇〇円

教育振興資金寄付者（敬称略）

- 明本 謙治 稲垣 淳造 大久保和明
- 小木曾 章 奥林 暁 笠井 英信
- 笠沼 徳昭 香月 周明 勝見 了映
- 菊池 平夫 木下 滋 小池芙詞子
- 坂本 誠一 佐藤 亨 〆田 信
- 新谷 裕樹 曾我 皆達 高島 悦夫
- 滝 薫 田尻 光昭 多田雄一郎
- 谷 彰英 常石 正弘 徳永 典子
- 内藤 雅文 長井 暢人 中村 勝実
- 中村 義昭 橋本 一哉 橋本 恒樹
- 長谷部教秀 原田 睦夫 福田 了哉
- 藤下 亘 古川 勘一 松下 正
- 松田 了正 村山 隆雄 森本 信逸
- 屋鋪 博次 安田 篤男 山下 一郎
- 山添 洋司 吉武 文知
- 昭和二十五年三月卒業同期会菩提樹会
真宗大谷派大垣教区教学研究室
株式会社フラットエージェンシー
匿名希望（二件）

2005年度後期 大谷大学生涯学習講座のご案内

大谷大学では様々な教養をお求めの方に、本学の知的資産をベースとした生涯学習講座を開講しています。本学ならではの宗教・信仰を求めていく講座、21世紀をいかに生きるかをテーマとする最先端講座、京都の文化の奥深さを知る講座と切り口は多様です。そこには常にひとのこころが流れています。大谷大学の生涯学習講座にご期待ください。

開放セミナーのご案内

1	テ ー マ	親鸞真筆『坂東本』に学ぶ親鸞の生涯
	担当講師	三木 彰円(大谷大学短期大学部専任講師)
	開 講 日	11月16日、30日、12月7日、14日 いずれも水曜日
	開講時間	17:50 ~ 19:20
	定 員	100名(先着順)
	会 場	大谷大学響流館 メディアホール
	受講料	4,000円(税込)

2	テ ー マ	初しぐれ 猿も小蓑を欲しげなり 芭蕉の開いた新世界
	担当講師	沙加戸 弘(大谷大学教授)
	開 講 日	10月27日、11月17日、12月1日、8日、15日 いずれも木曜日
	開講時間	17:50 ~ 19:20
	定 員	100名(先着順)
	会 場	大谷大学響流館 メディアホール
受講料	5,000円(税込)	

紫明講座のご案内

1	テ ー マ	2004スマトラ島沖地震と京都の歴史地震
	担当講師	西田 潤一(大谷大学教授)
	開 講 日	9月22日、29日、10月6日 いずれも木曜日
	開講時間	17:50 ~ 19:20
	定 員	100名(先着順)
	会 場	大谷大学響流館 メディアホール
受講料	3,000円(税込)	

博物館セミナーのご案内

1	テ ー マ	一步すすんだ古文書読み書き講座(初級編修了者対象)
	担当講師	平野 寿則(大谷大学専任講師)ほか
	開 講 日	9月17日(土)10月1日(土)15日(土)11月3日(木)23日(水)12月3日(土) 今回はその他学内イベントの調整のため、祝日にも開講日が予定されています。ご注意ください。
	開講時間	1講時:10:00 ~ 11:00 2講時:11:10 ~ 12:10
	定 員	20名(先着順)
	会 場	大谷大学響流館 マルチメディア演習室
受講料	18,000円(税込) テキスト代2,000円(税込)	

大谷大学京都学講座のご案内

1	テ ー マ	荘厳の京都学
	担当講師	第1回 伝統文化としての京都学 木村 至宏(成安造形大学長) 第2回 荘厳の絵画 畠中 光享(日本画家・京都造形芸術大学教授) 第3回 仏教彫刻のこころとかたち 文化財修理をとおして 藤本 青一(財団法人美術院国宝修理所所長) 第4回 寺院と京の和菓子 山口 富蔵(株式会社未富 代表取締役社長) 第5回 荘厳のともし火 和蠟燭の世界 和谷 篤樹(わた悟商店10代目) 第6回 京仏壇の世界 小堀 賢一(株式会社小堀 代表取締役社長) 第7回 荘厳の京都学 佐々木令信(コーディネーター:大谷大学教授)
	開 講 日	9月3日、10日、17日、24日、10月1日、8日、15日(いずれも土曜日)
	開講時間	13:00 ~ 14:30
	定 員	100名
	会 場	大谷大学響流館 メディアホール
	受講料	全講座:7,000円(税込) 希望する講座のみ受講:1,500円(1講座/税込)
	テ ー マ	荘厳の京都学
	開 講 日	9月3日、10日、17日、24日、10月1日、8日、15日(いずれも土曜日)
	開講時間	13:00 ~ 14:30

【申し込み方法】

各講座とも、ハガキ、FAX、Eメールにて、講座名、氏名(フリガナ)、年齢、性別、職業、郵便番号、住所、電話番号を明記のうえ、下記までお申し込みください。

【申し込み/問い合わせ先】

〒603-8143 京都市北区小山上総町 大谷大学教育研究支援課 TEL:075-411-8161(直通) FAX:075-411-8162

E mail opensemi@sec.otani.ac.jp

*講座名は変更になることがあります。各講座の詳細については、教育研究支援課までお問い合わせください。

本学教員の出版物紹介

- 『隋唐佛教文化』 磯波 護 著 韓 昇 編訳(上海古籍出版社)(二〇〇四・一)一三六頁
- 『清沢満之 その思想の軌跡』 神戸和鷹 著(法蔵館)(二〇〇五・三)二八三頁
- 『日本列島重力アトラス 西南日本および中央日本』 山本明彦・志知龍一 編 西田潤一 分担執筆(東京大学出版会)(二〇〇四・一)一三六頁
- 日本の名僧『浄土の聖者 空也』 伊藤唯真 編
- 名畑 崇・東館紹見 分担執筆(吉川弘文館)(二〇〇五・一)二二五頁
- 『不可思議な日常』 池上哲司 著(東本願寺出版部)(二〇〇五・四)二一九頁
- 『熊野信仰史研究と庶民信仰史論』 豊島 修 著(清文堂出版)(二〇〇五・四)二七〇頁
- 『自己』の揺らぎと変異 至んだ関係から問い掛ける。 滝口直子・鄭早苗 編著 渡辺啓真 分担執筆(アカデミア出版会)(二〇〇四・九)一七〇頁
- 『チベット仏教の原典』菩提道次第論。悟りへの階梯。ツォンカバ著 ツルティム・ケサン(白館戒雲)・藤仲孝司 共訳(UNIEO)(二〇〇五・六)四一五頁
- 『光華叢書6 宗教の相貌 民族と宗教を考える』 延塚知道 分担執筆(京都光華女子大学 真宗文化研究所)(二〇〇五・三)一四八頁
- 『Africana:The Encyclopedia of the African and African American Experience』 Kwame Anthony Appiah and Henry Louis Gates, Jr. 編 古川哲史 分担執筆(Oxford University Press)(二〇〇五・四)四五〇頁
- 『在日韓国・朝鮮人と人権』大沼保昭・徐龍達 編・共著 鄭 早苗 分担執筆(有斐閣)(二〇〇五・五)二八〇頁
- 『満洲国』文化細目』 植民地文化研究会 編 李 青 分担執筆(不二出版)(二〇〇五・六)七六〇頁

大谷大学博物館にて
フランクフルト・ゲーテ博物館の名品

「**ファウスト** 伝説と作品」**展開催!!**

二〇〇五年、二〇〇六年は日本におけるドイツ年です。これにあわせて本学では、ドイツのフランクフルト・ゲーテ博物館との共催による特別展「ファウスト 伝説と作品」を開催いたします。フランクフルト・ゲーテ博物館にとって初の海外での展示となります。

本展覧会では、日本初公開となるゲーテ自筆の原稿やペン画、シューベルトの自筆楽譜をはじめ、「ファウスト」の成立の過程と背景、第一部のストーリーをドイツのフランクフルト・ゲーテ博物館の名品によって紹介いたします。

2005年度 大谷大学博物館 特別展

2005
2006
Deutschland
in Japan
日本における
ドイツ年

Goethes Faust
Verwandlungen eines „Hexenmeisters“

ファウスト
伝説と作品

フランクフルト・ゲーテ博物館の名品

2005年10月1日(土) → 10月23日(日)
[但し、3日(月)・17日(月)は休館日]

開館時間：午前10時～午後5時(金曜日は午後7時まで) ※入館締切=閉館30分前
 観覧料：300円(一般・大学生) 200円(小・中・高生)

主催：大谷大学／大谷大学博物館、フランクフルト・ゲーテ博物館 協賛：日本ゲーテ協会
 後援：文化庁、ドイツ連邦共和国総領事館、京都府、京都市、京都府教育委員会、京都市教育委員会、
 京都ドイツ文化センター、日本独文学会、読売新聞大阪本社、京都新聞社、
 KBS京都、財団法人大学コンソーシアム京都

大谷大学博物館 〒603-8149 京都市北区小山上根町 TEL:075-411-8483 URL: http://www.otani.ac.jp/kyo_kikan/museum/

二〇〇五年十月一日(土) 十月二十三日(日)

*但し、三日(月)・十七日(月)は休館日
 ●開館時間：午前10時～午後5時(金曜日は午後七時まで)

*入館締切は閉館三十分前まで

●観覧料：三〇〇円(一般・大学生)、二〇〇円(小中高生)

在学生・同窓生は無料です!

受付にてお申し出ください。

記念講演会

大谷大学響流館 メディアホール

ペトラ・マイサク

(フランクフルト・ゲーテ博物館部長)

「ファウスト 伝説と作品」

十月一日(土) 午後二時

岩淵達治 (学宮院大学名誉教授)

「舞台にみる『ファウスト』」

十月十五日(土) 午後二時

記念コンサート

大谷大学講堂

「ドイツリートの調べ」ファウスト歌曲を中心に

十月九日(日) 午後二時



ソプラノ 豊住征子

(大谷大学短期大学部教授)



ピアノ 山井敦子

問い合わせ先：大谷大学博物館(電話〇七五 四二一 八四八三)

同期会、ゼミ・クラス会、OB・OG会

恩師を囲んで

1988～1995年卒業
沙加戸ゼミ同窓会

(2005.2.26)

伝統の国文学分野第3ゼミ。沙加戸先生がご担当になられた当時、「おまえら、地獄見したる」とおっしゃってから早17年。その亡者たちが集いました。来年の夏には、ご還暦記念の集いを予定（一泊）関係諸氏にご覚悟を。



平成14年度卒業沙加戸ゼミ同期会(2005.2.12～13)
久しぶりに皆で集まることができ、懐かしく楽しいひとときを過ごすことができました。



神戸和磨先生最終講義ならびに謝恩会(2005.3.12)

神戸先生のご退職に際し、神戸ゼミ卒業生を中心に150名が集まりました。多くの学兄姉とともに先生から受けた学恩への感謝を申しあげることができました。



児童教化研究会OB会
(1996～2002年卒業)
(2005.3.20)

記念すべき第1回目OB会です。第1部は部員宅で、第2部は市内居酒屋で行いました。久しぶりの再会で、大変盛り上がりました。写真は第1部のものです。皆、全然変わってなかったです。

昭和61年入学体育会スキー競技部女子同期会(2005.4.3)
お二人の先輩もお招きし、思い出話で盛り上がりました。会の夢は、「当時の部員全員の会」です。ご連絡お待ちしております。



人文情報学科松川ゼミ2003年度卒業生同期会(2005.4.16)

4月という忙しい時期にも関わらず多くの方が予定をあけて参加してくれました。わずか1年での同窓会ですが、1年であったため皆すぐに学生の時間に戻り、その上でそれぞれの広がった世界での出来事を持ち寄って話すことができたため、終始会話の途絶えることのない楽しい会となりました。

予科「一九会」
(2005.4.20～22)

昭和19年4月予科入学より3年間。工場動員、空襲、兵役、戦後の混乱と暗い時代でしたが、それでこそ皆が力を合わせて生甲斐を求めた友共、それが生きる灯となって60年。今に至る縁を深く頂くものです。



ドイツ文学分野同期会(1994年卒業)(2005.4.17)
湖西キャンパスで、大河内先生ならびに友田先生をお迎えし、久しぶりに再会して楽しく過ごしました。今回参加できなかった人も、次の機会では是非お会いしたいと思います。



2005年卒業寺林ゼミ同期会 (2005.5.3)
先日行いました寺林ゼミ同期会では、久々に友人たちの元気な顔も見れ、また、それぞれの仕事などについて色々と話が盛り上がり大成功をおさめました。



昭和20年入学有志の会「洗心会」(2005.5.17~19)
昭和20年入学の有志で「洗心会」を名のり毎年同窓会を開催。今年は5月17日より2泊3日で三陸の旅を実施。亡くなられた同窓の奥さんも今年は出席し、旧交を温めた。



大谷大学洗心学寮 昭和45年度入寮生同期会及び
木村先生寮監期北海道同窓会 (2005.5.21)
洗心学寮同期会、学長ご就任の宴を道内後輩諸氏と共催し全国より31名が札幌に集まった。教務所講堂で追弔法要を勤め、木村先生より講演をいただき、懇親祝賀の宴は木村先生ご夫妻と3次会まで大いに語り飲み尽くした。

暁鐘会

(2005.4.22~23)
母校大谷大学で、4月22日、大庭担任先生と同級物故者の追弔会を行い、学食で同窓会うどんを食べ、博物館など見学する。嵐山の「花のいえ」で1泊、トロッコ列車・保津川下りで旧交を温めた。



昭和52年卒業書道部同期会
(2005.5.14~15)

大学は随分様子が変わってしまっていますが、良い雰囲気は大切に残っているようで、十分に懐かしさを感じることができました。卒業以来初めて訪れた人もあり、在学中の話に花が咲きました。私たちは毎年のように会っているのですが、今年は大学に来られてよかったです。



大谷大学一六会 (2005.5.18~19)

このたび、一向一揆終焉の地・鳥越城跡(石川県白山市出合町)にわれら身を据え、「真宗今盛りなり」を逆証する法難 信心と疑謗の永劫不退の闘いの歴史たる真宗が今、われらに伝承されてあることを実感する。

大谷大学新聞部第2回OB会 (2005.5.21~22)

02年の初回に続き、今回は5月21日能登の地で開いた。昭和28年から36年入学のOB・部友19名が参集。次回は2年後。名簿漏れOBで参加希望の方は、自己申告を。





大谷大学同期36会in田沢湖・十和田
(2005.5.24~26)

昭和36年卒業同期生が3年振りに東北の田沢湖・十和田湖に集いました。お互いに歳をとり「古希」に近くなりましたが、女性の同期生を交えて元気に語り合う一刻を過ごしたのです。3日目に次回を期して散会しました。



道交会 (2005.5.28)

「少人数ではあるが、柔道部の灯を消さぬよう、先人達の柔道部への思いを相続するように。」との学生への廣川師範のお言葉がありました。今回欠席の諸兄も次回をご参加ください。



第3回大谷大学専門部
昭和24年卒業同期会
(2005.6.3~4)
卒業後55年、今年は長浜に集まった。市内を散策し、大通寺に参詣する。湖北の伝統的な信仰心の篤さを改めて強く感じた。宿では若き頃を懐かしみ、近況を語り合い、愈々気力を充実させ、次回を楽しみにして散会する。



2002年卒業大和ゼミ同窓会 (2005.5.28)

幼教の場合、卒業生の殆どが幼稚園が保育園に就職しているだけに、共通話題が豊富。保育者としての喜びや悩み、情報交換などワイワイガヤガヤ。子どもたちへのまなざしが最高。再会を約して散会。



菩提樹会 (昭和25年専門部卒業同期会) (2005.6.14~15)

半世紀ぶりに大学構内を参観させていただいて、旧講堂仏間において勤行。かつてみ教を請いし諸先生、共に学んだ今は亡き先達の面影を想起し、万感胸に迫るものがございました。



旧育英学寮昭和38年度入寮生同期会 (2005.6.9)

懐かしい顔が次々と集まり、想像していたよりどの顔も育英寮時代と変わらず、一気に学生時代の気分に戻った思いがしました。「同じ釜の飯を食った仲間」という言葉通りに、何年経っていても変わらない友情に、心温まり若返った気分になりました。



児童教化研究会（昭和38年入学・入部）
同窓会（2005.6.17）
近代化された学内の赤レンガを目にしなが
ら38年の歳月をタイムスリップ。青春のエネル
ギーを共に燃焼させた仲間とやっと逢えた嬉
しさがじわじわと身体に浸透する。尽きない
話に花咲いた懇親の席に感謝して帰宅。

第11回大谷大学
社会学教室同期会
（昭和39年3月卒業）
（2005.6.15～16）
卒業後、京都 北陸 北
海道 鹿児島等々、4年
に1度同期会を開いてき
ました。今回、中久郎先
生を囲んで京都でとい
うことでしたが、先生の
急逝と同窓生溝口君の
逝去が重なり、思わぬ
追悼同期会となりました。



児童教化研究会
（昭和40年入学・入部）
同窓会（2005.6.17）
児童教化研究会昭和42年度生の
願いから実現した「合同同窓会」
6月17日（金）に開催、昭和38
～44年度の7期にわたる会となり
ました。我々昭和40年度生の多
くも元気な姿で参加、なすこと
全てが相変わらず「純真（心）」
そのものでした。



児童教化研究会（昭和39年入学・入部）
同窓会（2005.6.17）
37年ぶりの同窓会に参加し、谷大のキャン
パスを見学した。赤レンガの建物を見て谷大だ
と納得をした。谷大の変わりように驚いたが、
学生気分になっている年輩の仲間の集まりに
なお驚いた。本当に楽しかった。ありがとう。



児童教化研究会（昭和43年入学・入部）
同窓会（2005.6.17）
2回目の同窓会、30余年ぶりの人もあり、
学生時代が蘇って楽しい一時でした。次
回は2、3年後、より多くの再会を...!



児童教化研究会（昭和42年入学・入部）
同窓会（2005.6.17）
亡くなられた先生、先輩方を偲び講堂
にて追悼会を済ませた後、立派な図書
館を案内していただきました。その後、
時の経つのも忘れ学生に戻り、よく
笑い、語り、あつという間の楽しい
ひとときでした。



児童教化研究会（昭和41年入学・入部）
同窓会（2005.6.17）
2年前に始まり2回目。メンバーが
仕事の都合で変わり、卒業以来の再
会者もいる。先輩後輩に囲まれて
いると、まさに学生時代は青春
そのものである。次回はもう少し
増えてくれると楽しい。



児童教化研究会（昭和44年入学・入部）
同窓会（2005.6.17）
昭和45年頃、私達は谷大の今はなき
児研部部室で、先輩の標語（純真なれ・
未熟なれ・持続せよ）を毎日観ていた
訳ですが、その言葉が今の私を厳しく
照らし問いかけていることを、再
度知らされた今回の会合でした。

大谷大学硬式野球部拡大同窓会
（1971～1976年卒業）（2005.6.17）
懐かしい顔・顔...。お頭の『ハゲ』
や『シラガ』に30年という風雪を
感じるものの、瞬時にしてタイムス
リップ。あの輝ける学生時代が昨日
のようによみがえり、懐かしくも
楽しい楽しい夜でした。人生に乾
杯!

第19回「谷大一八会」(2005.6.17~18)
 みんな八十路を過ぎ、生存者も残り僅かになってしまいました。それでも今回は10名が参加し、久しぶりに歓談できた身を「幸」と喜び合いました。来年を楽しみにしながら。



大谷大学 空手道部 創部50周年記念パーティー



大谷大学空手道部創部50周年記念式典
 並びに記念祝賀会(2005.6.25)
 昇級・昇段審査会、物故者追甲会、OB総会
 を行い、その後京都ホテルオークラにて記念
 祝賀会を開催し、先輩方と現役学生、来賓の
 方々の70名が参加されました。
 いつまでも、「押忍」の精神が引き継がれて
 いくことを願います。

大谷大学体育会ソフトテニス部OB会
 (2005.6.26)
 第34回大谷大学体育会ソフトテニス部
 OB・OG会を6月26日に開催いたしました。
 例年参加されるOB・OGが決ま
 っているように思います。来年はOB・
 OG会発足35周年記念なので、さらに盛
 り上がり、より意義のある会にしたい
 と思います。



第2回佐々木令信先生を囲む会
 (平成3年卒業佐々木ゼミ同期会)(2005.7.2)
 久しぶりの再会に、佐々木令信先生を囲み、中国天山へ
 行った研究旅行のことなど、色々な話に華が咲きました。
 前回、今回ともに出席できなかった方も、次回は是非お会
 いできるよう楽しみにしております。



大谷大学バスケットボール部OB・OG会<第30回記念大会>(2005.7.2)
 今年で第30回を迎えました。たくさんのOB・OGの方々にご参加いただき、大会、懇親会とも盛大
 に行いました。

大谷大学旧山岳部員の集い(1995・1996年入学有志)(2005.7.9~10)
 毎年同じ顔ぶれながら、年々に新しい発見と、鮮やかな出会いに触れ、熱せられ冷ま
 され、あやうく酔わされ、さらに醒まされ、ふらふらと一人一人バラバラに帰路につ
 く。毎年同じ様相。



浄影会in九州
 (古田ゼミ同窓会)
 (2005.7.30~31)
 古田先生と、九州の柳川で川
 下りの舟に乗りました。竹竿
 一本で舟を操る船頭さんなど、
 北原白秋の詩情そのままの風
 流な情景を見ることができま
 した。



佐々木教悟ゼミ同窓会(卒寿記念)(2005.7.23)
 7月23日、先生入院につき予定を変更。彦根駅に全国より17名参集。
 病院へ御見舞い、親しく歓談後、会場を長浜市内のホテルに移し、会食。
 久しぶりの会合に先生のご回復を念じつつ、盛會に終了する。

同期会、ゼミ・クラス会、OB・OG会を開催企画される場合は、同窓会本部へご連絡ください。連絡用リスト(名簿)・宛名シールの提供ならびに通信費等の一部として開催助成金(1万円)を補助させていただきます。また、同窓会ホームページ「無盡燈」へも開催の告知および報告を掲載いたします。

同期会、ゼミ・クラス会、OB・OG会等の開催をお世話いただく幹事さんへ

同期会、ゼミ・クラス会、OB・OG会開催一覧

開催日	会合名
2005.2.12(土)	平成14年度卒業沙加戸ゼミ同期会
2005.2.12(土)	平成2年・平成3年卒業東洋史ゼミ合同同窓会
2005.2.26(土)	1988-1995年卒業沙加戸ゼミ同窓会
2005.3.5(土)	バドミントン部OB会
2005.3.12(土)	神戸和磨先生最終講義ならびに謝恩会
2005.3.20(日)	児童教化研究会OB会(1996-2002年卒業)
2005.3.26(土)	自灯学寮204・205号室同窓会(1997年入学)
2005.4.3(日)	昭和61年入学体育会スキー競技部女子同期会
2005.4.16(土)	人文情報学科松川ゼミ2003年度卒業生同期会
2005.4.17(日)	ドイツ文学分野同期会(1994年卒業)
2005.4.20(水)	予科「一九会」
2005.4.22(金)	暁鐘会(昭和12年予科入学者同期会)
2005.5.3(火)	2005年卒業寺林ゼミ同期会
2005.5.13(金)	知真学寮12期生同期会
2005.5.14(土)	昭和52年卒業書道部同期会
2005.5.17(火)	昭和20年入学有志の会「洗心会」
2005.5.18(水)	大谷大学一六会
2005.5.21(土)	大谷大学新聞部第2回OB会
2005.5.21(土)	大谷大学洗心学寮昭和45年入寮生同期会及び木村先生寮監期北海道同窓会
2005.5.24(火)	大谷大学同期36会in田沢湖・十和田
2005.5.28(土)	道交会
2005.5.28(土)	2002年卒業大和ゼミ同窓会
2005.6.3(金)	第3回大谷大学専門部昭和24年卒業同期会
2005.6.9(木)	旧育英学寮昭和38年度入寮生同期会
2005.6.14(火)	菩提樹会(昭和25年専門部卒業同期会)
2005.6.15(水)	第11回大谷大学社会学教室同期会(昭和39年3月卒業)
2005.6.17(金)	児童教化研究会(昭和38年入学・入部)同窓会
2005.6.17(金)	児童教化研究会(昭和39年入学・入部)同窓会
2005.6.17(金)	児童教化研究会(昭和40年入学・入部)同窓会
2005.6.17(金)	児童教化研究会(昭和41年入学・入部)同窓会
2005.6.17(金)	児童教化研究会(昭和42年入学・入部)同窓会
2005.6.17(金)	児童教化研究会(昭和43年入学・入部)同窓会
2005.6.17(金)	児童教化研究会(昭和44年入学・入部)同窓会
2005.6.17(金)	大谷大学硬式野球部拡大同窓会(1971-1976年卒業)
2005.6.17(金)	第19回「谷大一八会」
2005.6.25(土)	大谷大学空手道部創部50周年記念式典並びに記念祝賀会
2005.6.26(日)	大谷大学体育会ソフトテニス部OB会
2005.7.2(土)	大谷大学バスケットボール部OB・OG会(第30回記念大会)
2005.7.2(土)	第2回佐々木令信先生を囲む会(平成3年卒業佐々木ゼミ同期会)
2005.7.9(土)	大谷大学旧山岳部員の集い(1995・1996年入学有志)
2005.7.23(土)	佐々木教悟ゼミ同窓会(卒寿記念)
2005.7.30(土)	タニコンOB有志 夏の宴
2005.7.30(土)	藤島ゼミ(昭和52年卒業)同期会
2005.7.30(土)	浄影会in九州(古田ゼミ同窓会)
2005.8.14(日)	渡辺貞磨ゼミ昭和60年卒業生同期会
2005.8.19(金)	藤島ゼミ(昭和52年卒業)同期会 雲岡石窟と内モンゴル5日間
2005.8.20(土)	2005年卒業徳岡ゼミ同期会
2005.8.27(土)	大谷大学剣道部講武会総会
2005.8.27(土)	2005年卒業豊住ゼミ同期会



渡辺貞磨ゼミ
昭和60年卒業生
同期会(2005.8.14)
同窓会も20回目。40を超え子どものこと、親のこと、と慌しく毎日を過ごす中、それでもやっぱり「私」のこと。いつ会っても自分を高める努力を怠らないあなたたちに刺激を受けて、また1年。前へ、前へ。



藤島ゼミ(昭和52年卒業)
同期会 - 雲岡石窟と内モンゴル5日間 -
(2005.8.19~23)
平成17年8月19日より23日まで、「雲岡石窟と内モンゴル5日間」の旅を、藤島建樹先生と共にしてきました。気分は『大学生』、身体は『中年』ということで、色々トラブルもありましたが、本当に意義深い旅をすることができました。来年もまた…。



2005年卒業徳岡ゼミ同期会
(2005.8.20)
今年の3月に卒業し、初めての同期会を開きました。半年も経っていないので、学生の時と、何ら変わることなく、ワイワイ楽しむことができました。これからも、年に一度は開いていきたいと思います。



大谷大学剣道部講武会総会
(2005.8.27)

8月27日に今年度の講武会総会を開催しました。OB・OGの参加は25名でした。当日は、専源講堂で物故者追弔会をお勤めし、その後、道場で現役対OB・OGの試合と合同稽古を行いました。懇親会は会場を新都ホテルに移し、現役も交えて和やかに語り合ったことです。来年は剣道部が戦後に再スタートしてから40周年となるので、記念の行事を予定しています。



2005年卒業豊住ゼミ同期会(2005.8.27)

8月27日に、2005年卒業豊住ゼミ同期会を開きました。当日はゼミ生全員参加で、豊住先生にもご出席いただいて、みんなで楽しい時間を過ごすことができました。「みんな、また集まろうね!!」

通信

「海外取材で学んだこと」

岸野 亮 哉

(一九九七年文学部仏教学科・仏教学分野卒業)

私は、フリーカメラマンをしています。二〇〇三年七月、「戦後」のイラクへ約三週間、単独写真取材に行きました。以来、軍事政権下のミャンマー（ビルマ）や津波災害後のスリランカ（反政府組織支配地域下の被災地を二度）を取材しました。仏縁があり、いつも現地でたくさんの人々に助けてもらい、友人もできました。

イラクでは真のイスラム教徒の、ミャンマーでは真の仏教徒の信仰心を目の当たりにし、それを知ただけでも取材した価値がありました。生活の中心に信仰があるのです。勿論、キリスト教徒やヒンドゥー教徒の信仰心にも触れることができました。

また、戦争や軍事政権は人災、津波は



天災ですが、そこで学んだことは命の尊さです。ある日戦争が始まり死んで行った人々。かつて政府によって民主化要求のデモ隊が発砲され、以来、言論の自由のない人々。突然の津波に襲われ亡くなった人々。私は、一番悲惨な状況時に現地にいた訳ではありませんが、その影を見ることは十分できました。死にたいと思わずとも、一瞬にして死んでいった人々がたくさんいることを知りました。一生治らないケガをした人々、精神的に追いつめられた人々に多数出会ってきました。特に、私と同世代、年下の人々の体験談を直接聞きますと、私と同じ時間を同じ地球上で生きながら、私とはあまりにも異なった体験をしていることに驚き、私自身が平和に何不自由なく生かされていることの不思議さを考えさせられると同時に、感謝の気持ち湧きます。

大谷大学の授業で、「人間とはなんぞや」という言葉と、その意味を学びました。今になり、現地での体験をもとに、この言葉の意味をより深く考えるようになりました。そして、自分自身の生き方と布教活動に生かしていきたいです。

合掌

(フリーカメラマン)



結婚
おめでとうございます

幸せなご家庭を築かれることを
念じ申しあげます。

()内は最終卒業・修了年 敬称略
同窓会本部掌握分

鈴木 隆幸	加藤 綾子(H13文)
山本 善崇(H12文)	藤原 信子(H12文)
和田 暁彦(H11文)	中村 奈美
山口 正芳(H14文)	堀 香織(H14文)
高橋 友和	藤井 幸子(H8短)
山口 兵太(H15文)	早川満宜子(H16文)
照山 大智(H15修)	泉 誓子(H9文)
開 雄喜(H14文)	大江 雅子
岡田 治之(H2文)	伊瀬みどり
柴田 俊作(H12文)	木下裕美子(H12文)
松浦 敦	高木 博美(H8文)

敬弔

ご生前のご功労を偲ひ、
謹んで哀悼の意を表します。
()内は最終卒業・修了年 敬称略
同窓会本部掌握分

矢野 史典	文学部 (S56)	H16	1	13
中島 浩焉	文学部 (S11)	H16	6	17
木下 元宣	文学部 (S26)	H16	8	24
芳原 慶純	文学部 (S57)	H16	9	21
逸見 輝雄	大専門 (S11)	H16	10	16
高山 秀丸	文学部 (S21)	H16	10	19
綿 邦明	文学部 (S45)	H16	10	24
千葉 章子	文学部 (H6)	H16	10	24
密山 右	文学部 (S26)	H16	10	30
小谷 賢教	文学部 (S25)	H16	10	31
加藤 彰雄	文学部 (S12)	H16	11	14
英 隼	文学部 (S37)	H16	11	17
菊地 善調	大専門 (S21)	H16	11	23
大谷 善調	大専門 (S18)	H16	11	25
算 文	文学部 (S15)	H16	12	12
加藤 文	文学部 (S22)	H16	12	19
黒河 龍雄	文学部 (S34)	H16	12	21

窓 同

「大谷大学とわたし」

津村 記久子

(二〇〇〇年文学部国際文化学科卒業)

わたしは国際文化学科出身で、四年間、異なる文化に接し、それを理解するというのはどういうことなのか、ということを知りました。小説を書くことは大学に入る前から志しておりましたし、実際に手慰み程度に書いておりましたので、文学科に入ったほうがいいのかなあ、と高校三年の受験の時に迷ったのですが、願書を提出する直前、大谷大学のパンフレットと一緒に見ていた友達が、この学科おもしろそうだなあ、と呟いたのできつかけに、国際文化学科を希望することにしたのです。まったくの出来心、と言ってもいいような志望動機でした。しかし今になって、手慰みでなくお話を書くようになって、自分はその時、あの友達と一緒にパンフレットを見ていてよかつ



たなあ、とぼんやり思うのです。

国際文化学科で学ぶ前にはとても漠然としていた「自分の書きたいこと」が、いったい自分がどのようなことを国際文化学科で学んできたかということをはっきり自覚するにつれて、自分がなにを書きたいのかもわかるようになってきました。わたしは、人と人との軋轢や共感にとても興味があります。それは、ただ人の心を問題にしているという以上に、その人の持つ背景や立場を加味した上で、いろいろなバツクポーンを持った人々が、それぞれの差異を埋めもし、時にはその差異を際立たせもする、という行為への興味です。

個人と個人との違いは、文化と文化の違いにも似ていると思います。異文化を理解するということの困難さは、他者を理解するということの困難にも似ています。わたしは、国際文化学科で各地の文化について学びながら、人が人を理解しようとするということを勉強したので、今はそのことが、この先何年も財産になるんだろうと、一緒にパンフレットを見ていた友達の呟きにとても感謝しております。次第です。

(会社員・作家)

第二十一回太宰治賞受賞



二階堂隆元	短 期 (S 57)	H 17
永吉 勸	文学部 (S 32)	H 16
伊奈 教雄	大専門 (S 13)	H 16
飛田 哲夫	大専門 (S 28)	H 16
平山 健道	大専門 (S 23)	H 16
鹿崎 榮俊	大専門 (S 21)	H 16
東澤 眞静	大専門 (S 6)	H 16
寺尾 賢首	博 士 (S 45)	H 17
川出 顕雄	文学部 (S 33)	H 17
宮島保次郎	大専門 (S 15)	H 17
松島 龍城	大専門 (S 10)	H 17
萩 泰遵	文学部 (S 42)	H 17
水無瀬淳雄	大専門 (S 16)	H 17
鷺野 暁	大専門 (S 12)	H 17
宮田 誓雲	大専門 (S 19)	H 17
松代 慧丸	大専門 (S 21)	H 17
天山 賢澄	大専門 (S 15)	H 17
禿 環	大専門 (S 26)	H 17
東溪 漸	大専門 (S 21)	H 17
水田 恵勝	大専門 (S 14)	H 17
其日 貞観	大専門 (S 17)	H 17
中尾 晃忍	大専門 (S 12)	H 17
高橋 武	大専門 (S 21)	H 17
大谷 克育	文学部 (S 36)	H 17
三上 隆信	文学部 (S 50)	H 17
清澤 章	修 士 (S 11)	H 17
大谷 修 士	修 士 (S 36)	H 17
久保田玄立	大専門 (S 19)	H 17
井上 康	大専門 (S 15)	H 17
日野 泰道	大専門 (S 17)	H 17
池亀 広純	大専門 (S 45)	H 17
津田 智	大専門 (S 23)	H 17
金波 定芳	大専門 (S 14)	H 17
井上 定昭	大専門 (S 23)	H 17
田淵かおり	大専門 (S 60)	H 17
高坂 制立	文学部 (S 37)	H 17

村井英雄教授 二急逝

去る八月七日、本学教授の村井英雄先生が急逝されました。ここに深甚の謝意を表し、謹んで哀悼の意を表します。

「不思議な空間」

弾けるような笑い声が廊下中に響きわたるかと思えば、はたまた海辺にいるのかと錯覚するような服装で構内を闊歩する学生たち。屈託のないその顔は自信に満ちあふれ、未来に向かって輝いているかのように見受けられる。

そんな学生が時折みせる不安げな様子は一体どこからきているのだろうか…。何事も要領よくこなせるがそこには余韻がなく、自らを追求することもせず手をこまねいている。永遠に続けばよいと思う学生生活と、やがて社会人となる狭間に身を置いているためのなのか。

或る時、大学を訪れた人から、大谷大学はまるで花園のような別世界ですね、不思議な空間だと言われた。その空間にどっぷりと浸らっている私は、果してこれでよいのだろうかと反省をしたものがある。

最近、二つのコンサートに出掛けた。一つは保育士になって三年目の幼児教育科の卒業生で、女性一名を含む五人組のバンドである。普段は別々の保育園で保育士として忙しい日々を送る彼らだが、この日ばかりは心を一にして思いの丈を発散していた。まだまだ未熟であるが舞

台で大暴れしている姿はとても新鮮で、その若さに胸を熱くした。

もう一つは、ニューヨーク在住のジャズギタリストSさんのライブである。Sさんは宮崎県のお寺の出身で本学で大谷派教師資格を取得、その後奨学金を得て一九九九年にアメリカに渡り、ボストンのパークリー音楽大学に入学。ギター科全学生の代表として、世界で最も注目されているジャズギタリストと共演して好評を博し、大学で受賞もされている。

ニューヨークを拠点として活躍されているが昨年は日本、ヨーロッパ、ハワイなどで演奏。今回は京都のライブハウスに出演されることを知り、出掛けた訳だが、Sさん（三十一歳）以外の四人は二十二歳から二十五歳と若く、その研ぎ澄まされた旋律には上質な美しさがあった。荒削りな素人とプロの演奏に大差こそあれ、いずれも卒業生ということに深い感銘を受けた。

秋分の日が近づく頃、きつと咲く彼岸花と緑の松林に囲まれた赤レンガの建物がかもし出すゆったりとした空間も良かったが、今の大学には若さがある。

大谷大学助教授・版画及び造型一般

岡崎 紀子

表紙絵
「彼岸の頃」

41.0 x 31.7 cm 二〇〇五年作

私が学んだもう三十五年以上も前は、大谷大学の本館（現在の尋源館）は東西に長く、歴史を刻まれた壮麗な学舎でした。階段やその手すりは樺材でできていて、机さえもインク瓶を置くへこみまでついた樺の天板で作られていました。古い立派な建物でしたので夏休みなどには「陸軍中野学校」など映画のロケにも使われていました。本館の南側の真中には地道が通っており、その道の広い北側は松林となっていて常緑の草で敷き詰められていました。南の扉までの間は雑草で覆われ二本の花梨やヒマラヤ杉、山桜などの大木、南東には枇杷や芭蕉やグミ、それにポボウの木まであり、キジバトやヒヨドリ、ムクドリ、時には鶯の声も聞こえる市街地にもかかわらずまことに自然豊かな大学のキャンパスでありました。私の時代はもう既に室町通の突き当たりの南の門は閉ざされて久しい時で、大学の正門は今の場所より少し南にあり、門衛の建物もレンガ造りでした。

そして何よりも印象的なのは、秋の彼岸近くになると本館の松林の緑の中に毎年真っ赤な燃えるような彼岸花が群生して咲いていたことです。京都の町中でこのような光景はどこにも見る事のできない感動でした。私は彼岸花が咲き出すと心が落ち着かず、写生をしていました。松林の地面を少し掘ると昔の学生が使用していた古いインク瓶が出て来たりして歴史の重さを感じたものでした。時は移り、旧本館は短くなり、新しい建物が次々と建ち整備されましたが、やはり大谷のシンボルは本館であり、あの彼岸花のある風景は鮮烈に目に焼き付いて離れません。新しい建物も卒業生の思い出に残る学舎であり、百年後には文化財の指定となりうるような建物として残って欲しいものです。

畠中光夏（昭和四十五年文学部卒）

大谷大学非常勤講師

京都造形芸術大学教授

2005年9月20日発行

発行 大谷大学同窓会本部
編集 無盡燈編集委員会

〒603-8143 京都市北区小山上総町 大谷大学校友センター内
電話(075)411-8124 FAX(075)411-8157
振替 01020-9-20542

同窓会ホームページ <http://www.mujiinto-otani.org/>

E-mail:kouyu@sec.otani.ac.jp

『無盡燈』の題字について 親鸞聖人の真蹟の坂東本『教行信証』から集字したものです。『維摩経』に「無盡燈というのは、譬えば一つの燈をもって百千の燈をともしようものなるが、その明りはついになくなることがない。…説かれた教えのとおりにみずから一切の善いことがらを増しふやす。これを無盡燈となづける」とあり、先輩がともし続けた伝統に輝く燈の名に恥じないことが願われています。